



「見たり、聞いたり、探ったり」No.235

通算 No.387

青 木 行 雄

インド大使公邸の訪問と 新木場にインド人学校(?)について

2019年(平成31年)1月17日、新しく在日インド大使が赴任されて来た。名前は「サンジェイ・クマール・ヴァルマ」という方で大変な秀才と聞く。そして、奥様も大変美人で名前は「グンジャン・ベルマ」という駐日インド大使夫人である。

この奥様の講演会という名目で新宿区西早稲田にあるインド大使公邸に行く事になった。元南部藩の下屋敷を譲り受けたというこの大使公邸はすばらしい環境で、都内にこんな邸宅がまだあるんだ～と感心した次第である。

まず「グンジャン・ベルマ」様、駐日インド大使夫人(公表されているので)について記してみたい。

中学校教員として第二外国語の英語を18年間教え、幼稚園教員の教育研修にも従事した。趣味は絵画でベトナムのラッカー画、アクリル画、水彩画、素描。子供服の裁縫や刺繍、ミステリー小説から歴史書まで愛読。手織り布、サリーのタッサー・シルク、マルベリー・シルク、非暴カエリ・シルクへの造詣が深い。インド各地の多様な織物についても知識と関心を持っている。英語、ヒンデュー語を話す。

インドのビハール州ムザッファルプル出身。

インド大使公邸

東京都新宿区西早稲田2丁目18-17

JR高田馬場駅から徒歩で15分程かった。

まず訪問した時の様子から先に記して見る。案内の中に、「インド大使公邸のドアオープンが、17:30～17:45の15分間となります。17:45分以降はセキュリティの関係でドアが閉まってしまうので、お遅れなきようご注意ください」と注意書をもらった。

正面玄関に10分程前に到着したので少々待ったが、ピッタリ、17:30にドアオープンされた。大通りより玄関を入ると大きな森の中に。2～3分



※現在日インド大使、サンジェイ・クマール・ヴァルマ氏である

歩くと大使公邸の建物入口玄関に着いた。この玄関に入るとそこはもうインドの世界である。

ガネーシャの飾り物や素敵な絵画をバックに、ヴァルマ大使とベルマ大使夫人に暖かくお出迎えいただいた。日本風建物だが、靴は脱がずにそのまま上がった。そしてウエルカム・ドリンクを手にする。それから歓迎の為に音楽と踊りなどのエンターテイメントが30分程あった。その後本日のメイン目的のベルマ大使夫人の講演会が30分程あって、その後晚餐会となる。



※インド大使公邸の応接間 広々とした部屋である



※大使公邸の庭、ベランダの接待席、広々とした庭である



※入口の玄関、開門前の入口



※開門して入り始めた招待者



※入口玄関より、2～3分歩き建物の玄関へ



※建物の玄関口に着いた

料理はもちろんインド料理、大変おいしいという所まではいかないが、これがインド料理かという興味でいただいた。部屋数は随分あったが、開放された部屋は4部屋程で絵画や置物がふんだんに飾ってあった。



※玄関の入口、インド人のお出迎えである



※室内の装飾品



※インド舞踊を見る



※大使がインドの楽器を説明

今日の同行者は20人程であったが、大使側も大使・大使夫人も入って、15人程の職員やメイド達の歓迎であった。そして大変楽しい晩餐会であり、多くの感動と他国のシキタリ等大変勉強になった。これがインド大使公邸訪問の感想である。

今、新木場に近年インド人学校が出来るのではということで話題になっているので、少々調べてみた。

今、日本にどのくらいのインド人が生活しているのか興味があって先に調べてみると、在日インド人数は全国で22,984人(2012年時点)。その30%にあたる7,902人(2014年時点)が東京都内に住んでいるという。(かなり以前のデータであるが)

東京23区で最もインド人が多いのが江戸川区らしい。約2,000人で都内全体の約25%を占める。次いで江東区の約1,200人、次いで港区の627人、台東区の611人、品川区の393人が続いている。都内全体で江戸川区・江東区の2区で40%を占めていることになる。



※大使夫人の講演、インドの織物を説明

もともとインドのムンバイ←→神戸間で日本初の定期航路が運航していた関係から神戸に大きなインド人のコミュニティがあったとされる。首都圏では横浜に住むインド人が多かったそうである。どちらも貿易に便利な港町なのだ。



※インド料理、バイキングだが別にいろいろあった



※参加者の面々、20人程の参加者であった

ところが、状況が大きく変わったのが、2000年直前のことであった。

今でも思いですが、コンピューターが誤作動するのではと世界中が、大騒ぎとなった「2000年問題」に対応するため、優秀なIT技術者を多数輩出するインドから人材が来日するようになったのである。

2000年(平成12年)には当時「森喜朗首相」もインドを訪問し、IT関連企業を中心に日本で働くシステムエンジニアへのビザ(査証)発給が大幅に緩和されたことも大きな追い風になったようである。こうして東京で働くインド人が飛躍的に増える要因になったのである。

そんなことから、新たに来日したインド人の受け皿となったのが江戸川区だったと記されている。

ちなみに1990年(平成2年)時点で江戸川区内のインド人はたったの58人だった。港区や世田谷区・目黒区などの方が多かったらしい。だが2006年以降、江戸川区が都内首位だった港区を抜いて、都内で最もインド人の多い区に浮上したのである。

それでは本題にもどり新木場インド人学校について記してみたい。

このように日本に長期滞在する家族連れのインド人エンジニアが増加するに従って、2004年(平成16年)8月に江東区森下に初めての東京校が開校することになった。そして同年の10月、特定非営利活動法人(NPO)で東京都が認証したのである。

名前は学校法人「インディア インターナショナルスクール学園」である。

この学校が、2007年(平成19年)4月、江東区新大橋へ移転した。

その後、増加を重ねて場所を探していたが、旧第三大島中学校があいたので、校舎賃貸として江東区では、2010年(平成22年)4月、ここ江東区大島の校舎に移転させることになったのである。

その後、このインド人学校は2016年(平成28年)4月、東京都から学校法人として認可されている。



※東大島、小名木川の川のたもと、川に面しており、大きな車は入れない。小さな看板が、「インディア・インターナショナルスクール」とある



※4階建の昔の大島中学校で大変古い校舎である。50～60年前の建物のようだ



※新木場、東千石橋、中通りの橋のたもと。下り坂で、新木場で一番事故の多い所という



※橋のたもとで一番の海べりにあたる。隣りに加工場がある。4,153.92㎡ある

現在のこの学校法人の概要を記してみると、学校名は変わらず

インディア インターナショナルスクール学園である。

所在地 江東区大島 1 - 20 - 20 (旧第三大島中学校跡地)・校舎

理事長 ニルマル ジェイン(インド人)

生徒数 920人(平成30年5月)幼稚園～高校

※うち日本人85名、インド人江東区内居住者424人

学級数 36学級(幼稚園5、小学校20、中学校6、高校5)

移転希望の理由

大島校舎が築50年以上たっており、建てかえが必要になったことと、耐久性に問題が生じてきたこと等であるという。

そこで江東区は代替地を探していたが、江東区所有の土地が新木場の土地があくことになった。

場所、江東区新木場 2 - 7 - 6、江東区リサイクルパーク跡地である。

敷地面積、4,153.92㎡である。(約1,300坪)

ここに江東区はこの学校を移転したいと新木場の要人とかなり以前より、交渉を始めていた。近隣の会社には個々に説明に来られたという。

貸付期間は、30年

開校は2022年(令和4年)4月にしたいと予定しているようである。

大島の校舎は古く、大型自動車はもちろん入る事は出来ず、軽自動車もとめるスペースもないくらい狭く校舎も古い、こんな所で10年以上も良く勉強が出来たかー。早く広い所へ移してやりたいと思うような場所でもあった。

しかし、今の新木場が受け入れに最適かというところと多くの疑問が残る。近隣が音やほこりなど出る製材加工工場であること、新木場は大型トラックが多く出入りし、大変危険であること、新木場内でも一番交通が危険とされている場所でもある。そこに幼稚園生から、小学校、高校生まで920人程の生徒が通うことになる。また親の送迎自動車、スクールバス等の頻度等を考えると問題は山積みであり、大変難題であるようだ。

令和元年8月18日記



駐日インド大使館

出典：<https://ja.wikipedia.org/wiki/>